

## 法令 No.8 使用者等の義務②

### 第 54 回 (2009 年)

問 27 許可の取消し、使用の廃止等に伴う措置に関する次の記述のうち、放射線障害防止法上正しいものの組合せはどれか。

- A 放射性同位元素によって汚染された物を、廃止の日の前日に、他の許可廃棄業者に譲り渡した。
- B 借り受けている放射性同位元素を、廃止の日から 3 週間以内に、届出賃貸業者に返還した。
- C 放射性同位元素及び放射性同位元素によって汚染された物を、廃止の日から 3 週間以内に、届出販売業者に譲り渡した。
- D 販売の業の廃止に伴い、講じた措置の報告書について、廃止の日の前日に、文部科学大臣に提出した。

1 ABC のみ    2 AB のみ    3 AD のみ    4 CD のみ    5 BCD のみ

問 29 所持の制限に関する次の記述のうち、放射線障害防止法上正しいものの組合せはどれか。

- A 許可廃棄業者は、その許可書に記載された廃棄物貯蔵施設の貯蔵能力の範囲を超えても所持することができる。
- B 許可使用者は、貯蔵施設の貯蔵能力の範囲内であれば、その許可証に記載された種類以外の放射性同位元素を所持することができる。
- C 届出賃貸業者から放射性同位元素の運搬を委託された者の従業者は、その職務上、当該放射性同位元素を所持することができる。
- D 届出販売業者は、その届け出た種類の放射性同位元素を、地震等の発生により放射線障害のおそれがある場合又は放射線障害が発生した場合にあっては、応急の措置を講ずるために所持することができる。

1 ABC のみ    2 AB のみ    3 AD のみ    4 CD のみ    5 BCD のみ

問 30 危険時の措置における緊急作業に係る線量限度に関する次の文章の ( A ) ~ ( C ) に該当する語句について、放射線障害防止法上定められているものの組合せは、下記の選択肢のうちどれか。

「緊急作業に係る線量限度は、実効線量について ( A )、眼の水晶体の等価線量について ( B ) 及び皮膚の等価線量について ( C ) とする。」

	( A )	( B )	( C )
①	100 ミリシーベルト	300 ミリシーベルト	1 シーベルト
2	50 ミリシーベルト	100 ミリシーベルト	500 ミリシーベルト
3	100 ミリシーベルト	300 ミリシーベルト	500 ミリシーベルト
4	50 ミリシーベルト	300 ミリシーベルト	500 ミリシーベルト
5	50 ミリシーベルト	100 ミリシーベルト	1 シーベルト